

会議録

会議の名称	西東京市立学校給食運営審議会（第4回）
開催日時	令和3年7月13日（火）午後2時30分から午後3時50分
開催場所	住吉会館ルピナス 2階研修室
出席者	（委員）高野会長、中村副会長、佐々木委員、高見澤委員、高橋委員、伊藤委員、戸城委員、喜多見委員、笹月委員、新出委員、石井委員、菊池委員、伊藤委員、上田委員 （遅参）辻委員 （欠席）山崎委員 （事務局）大谷学務課長、近藤、石部
議題等	<議題> 1 報告事項 2 中学校給食アンケートについて
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>令和3年4月1日付人事異動に伴う委員交代 学務課長挨拶 出席委員14名、委員数16名で過半数に達しているため、本審議会の成立を確認 傍聴4名</p> <p>議題1 報告事項 令和3年度予算特別委員会提出資料について ○事務局：資料説明 ○会長 質問はあるか。 （「なし」）</p> <p>議題2 中学校給食アンケートについて ○会長 前回の審議会で、アンケートの内容について審議した。内容を精査し、11月に全中学校生徒にアンケートを実施した。 最初に、資料3「中学校給食アンケート報告書」について、質問はあるか。 （「なし」） ○会長 アンケート結果について、意見・感想を述べてほしい。 ○委員 自身の子どもは、中学2年生の女子であり、体型を気にしている。給食は喫食しているようだが、家では夕食はいららないと言う。インターネット等の情報から糖質を制限しているが、その情報の真偽がわからない。結局はバランスよく食べることがいいのではないかと考えている。 ○委員 アンケート結果を見て、食育に関して、大人が伝えたいことがきちんと伝わっていると感じた。また、自由記述欄に感謝の気持ちが多く書いてあったことをうれしく思う。考察に、学校給食の取り組みの中で「家庭で不足しがちな豆、魚、野菜を多く使用」とあるが、自身の子どもは、豆が苦手なので、家庭では豆料理を作ることはない。苦手なものも、給食という枠の中では食べることができ、食の多様性も触れる</p>	

機会になっていると感じたアンケート結果だった。

- 委員 味や温度は好みの問題もあると思うが、概ねどの生徒も満足していると感じた。それは給食を作る方たちの努力や、過去のアンケートに基づいて改善してきたからだろうと感じた。指摘したい点は、コロナ対応として、おしゃべりをする時間は基本的にない状態で、全員が前を向いて食事をしているのにも関わらず、特に女子で時間が短いと回答している生徒が多く見受けられたことである。自身の子どもは弁当を選択しているが、残して帰ってくることがある。理由を聞くと「忙しくて給食の時間がとれなかった」と話していた。喫食時間がきっちり15分とれているのか、前後の忙しさでもっと短くなっていたらかわいそうなので、改善できたらよいと思った。
- 委員 私は30年前、自身の子どもと同じ中学校に通っていたが、当時給食はなく、家庭弁当か、近所のパン屋が売りに来るパンを購入していた。今は中学校でも給食があり、保護者はとても助かっている。西東京市の行政がこれを推進してもらい感謝している。アンケート結果をみると、生徒たちも給食を楽しんで美味しく食べていることがよくわかった。今後は、中学校給食のグレードを上げるため、アンケートを参考に、よりおいしく楽しい給食をお願いしたい。
- 委員 学校給食摂取基準が定められているとは聞いているが、基準には男女差があるのか、また摂取カロリーについては、基礎代謝量や運動量によって必要量も個人差があると思うので、どの位置の値を基準としているのか表記されているとわかりやすいと思う。そうすることで、量についての議論ができ、生徒がどうしても残してしまうのかわかると思う。

自身の子どもは中学校2年生の女子だが、「野菜やおかずはなんとか食べられるが主食が多い、全て完食するには時間が足りない」と言っている。配膳の際に、減らしてほしいと言うことができず、盛られたものを残すことに罪悪感を持っているとよく話している。できるなら、男女で主食の量を変えることを検討してほしい。そうなれば、時間が短い、量が多いという心配事も解消されると思う。
- 委員 自身の子どもは中学生の男子だが、給食の時間が短いと話している。学級では、食缶に残ってしまった分を食べられる生徒が食べるというようにしているようだが、おかわりをすると時間が短く急いで食べていると聞いている。せっかくおいしく作られた給食を、味わうことができる時間があつたらいいと思う。好き嫌いがあっても給食では食べているようなので、ありがたい。
- 委員 この審議会に参加するまで親子給食を知らなかった。コンテナの積み込みを見学し、試食会をして、大変なことをしているのだと感じた。定期テストのときにも給食がでることに驚き、保護者としてはとても助かっている。西東京市は、都心と違って畑も多いので、今後も旬の地場産農産物をたくさん使ってほしい。

アンケート結果をみると、牛乳の項目で、牛乳パックに対する不満があがっている。試食会の際、飲用牛乳が瓶からパックにかわるにあたって、小学生が開いて洗うことができるか検討したと思うが、中学生になると、開くと手が汚れるから嫌だということがあるのかと思った。また、中学1年生は牛乳をよく飲むが、3年生になると飲み残しが多いと聞いたことがあるので、改善できたらと思っている。
- 委員 アンケート結果を見て、全体として西東京市の親子給食はうまくいっていることが数字としても概ね確認できた。ただ、本来はこれまでの評価や他の自治体と比較しないと評価できないので、印象としての確認である。

課題については、先ほどから保護者委員の発言のとおり、給食時間の問題がある。特によく噛まない習慣が様々な影響を与えるが、今後の検討として考察に書かれていたので納得した。糖質については、WHOが、嗜好品としての砂糖類の取り方を、トータルカロリーの10%未満としていたものを5%未満だとより健康に望ましいと追加した。しかしそれは、主食などでんぷん類ではない。主食は科学的にきちんと考えられている量だという教育が色々なタイミングでされているので、それが生徒の心や頭

に残ると良いと思いつつコマースの強さを実感している。また、個人差について、男女差も大きい、体格差、運動量の差、発育スパート、肥満の問題もある。全員が同じ量では、合わない子がいるので、多少の調整が許されるような雰囲気があれば良いと考える。日本では、5年に1回食事摂取基準が改定されている。それに加え、児童生徒の実態調査を全国的に行い、それを基にして学校給食摂取基準ができていくという背景がある。

- 委員 2015年版の食品成分表（7訂）を使用し、令和3年2月に一部改正があった学校給食摂取基準に基づき献立を立てている。学校給食を個人に合わせて作るのは理想だが、給食費や食材発注等の関係上、中学校は中学1年生から中学3年生まで一段階での提供となっている。学級で、量の調整が可能となるような雰囲気づくりをして対応してほしい。

残菜について、昨年度はコロナの影響で増えた印象がある。特に中学校では、おかわりができなくなり、先に増やそうとしても皿に盛りきれず、余っていた。現在は、例えばカレーライスに二皿使用するなどの対応をしたこと、コロナ対応にも慣れてきたこともあり、残菜は減ってきたという印象がある。中学校の栄養士と連携しながら状況をみつつ、味や量を相談し、食器についても考え、できる限りの対応をしたいと思っている。

- 委員 アンケート結果のうち、残すことが多い理由で、肉・魚、野菜の項目に「味に対する不満」の割合が多かった。味付けに対する個人差はなかなかフォローしきれないと感じた。コロナ禍で、小学校の栄養士が中学校を訪問する頻度も減っており、子どもの顔を見ながら献立をたてるのが難しいのが現状である。中学校の栄養士と連携し、残菜の量を見ながら様々な調整をしているが、給食当番の人数を制限するため、品数が減っている中で栄養価を確保しなければならず、悩ましいところである。小学校の献立を基準にし、中学校は1.3倍にするという形にしているが、小学校と中学校で必要となる栄養素が違うので、単純に1.3倍にして補えるかという点と厳しい。今の制度の中で自分たちができることをしたい。

- 委員 給食時間は短い。4時間目が終わった後10分間で、全員が手を洗い、給食委員はエプロンをつけ、全員に給食を配り終えるが、この間ほとんどしゃべらずに行っている。食缶に残った給食を、食べられる生徒に追加で配り終えてから「いただきます」をする。残菜をなくすため、残っているものを配りたいが、時間との闘いである。その後黙々と食べる。密を避けるため、食べ終わったら各自片づけてよいことになっており、終了のチャイムがなる頃には、ほぼ全員が食べ終わっている。時間が無いといいつつも、黙々と食べるので食べ終わっていない生徒は数人である。1年生は厳しいかもしれないが、2、3年生は遊びに行く準備をしている。よく噛んでいないので、噛ませなくてはいけないと思うが、これも時間との闘いである。

- 委員 小学校で子どもと給食を食べている。以前の小学校では、おしゃべりに花が咲き、手が進まない児童が多かったが、コロナ対応で前向きで食べることにより、時間内で落ち着いて味わって食べることができ、残菜が減った。給食室から栄養に関する手紙が毎日届き、献立の意図を考えながら食べている。各家庭から同じ金額を徴収して規定量を提供している。コロナの影響で、おかわりとして後から増やすことができなくなったため、最初に増やしたい児童に配慮が、やっぱり食べられなかったということが多々ある。良い面大変な面があるが、子どもたちは給食のおかげで色々な味に触れたり、栄養バランスの良い食事を喫食できている。いち小学生の母親としては普段作れないものを工夫して提供する給食はなくてはならないと思っている。

- 会長 中学生は、一生懸命考えてアンケートに回答したと思う。また先生方にも苦労をかけた。相当のエネルギーを使ってとったアンケートなので、教育委員会において結果を十分に生かしてほしいと思う。

- 会長 議題2は終了する。今期の審議会は本日が最後となる。このメンバーで会うの

は最後になるので、感想を述べてほしい。

- 委員 保護者の意見を聞けるいい機会だった。
- 委員 知らなかったことがたくさんあり勉強になった。
- 委員 色々な方の話が聞けた。また機会があったら聞かせてほしい。
- 委員 保護者委員から色々な意見いただいて参考になった。
- 委員 参加に対し感謝の意を表す。
- 委員 この審議会を通して、給食に関することをたくさん知ることができた。
- 委員 子どもから聞けない情報を聞けるのでありがたかった。
- 委員 給食を試食し、調理の様子を見て、様々な苦労があることがわかった。今後も子ども達のための給食運営をお願いしたい。
- 委員 この審議会に参加したことにより、献立表を見て栄養を考えたり、レシピを開拓したり、より子ども達のために頑張ることができていることに感謝したい。試食会に参加し久しぶりに給食が食べられてうれしかった。
- 委員 この審議会に参加して色々なことを学び、給食を通じて色々なことを生徒に伝えたいということがわかった。まわりの保護者にも情報共有したい。
- 委員 献立表を見ると、全く知らないメニューがあり、栄養士や給食担当が考えて作っているのがとてもありがたいと感じる。食べることは生きることなので、そういうことが子どもたちに伝わるように今後も推し進めてもらいたいと思う。
- 委員 ひばりが丘中学校は中学校で初めての自校式給食になる。みなさんの力を借りて成功に導いていきたい。
- 副会長 平成23年から中学校給食が始まって、平成24年、27年、29年、今回とアンケートをとってきた。生徒の生の声を聞きながら、また審議会で委員の声を聞きながら西東京市の給食の改善を図ってきたことは、尊い歩みであると感じている。コロナでいいところもあるという意見もあがったが、よく噛むようになり、しっかり給食放送を聞いたり、味わうことができたりということを感じている。学校教育のなかでは制約も色々あるが、見方を変えれば制約は力に変えられる。
学校休業を経験し、あらためて学校の意義を考えると、子どもの居場所であったり、給食を毎日提供できたり、子どもたちにとってはかけがえのない場所で、セーフティゾーンになっていると感じている。冒頭で課長から西東京市の給食は丁寧に作られていると話があったが、現場では日々調理員や栄養士が色々な配慮をしている。普段なかなか食べられないような食材を使用したり、郷土料理、海外の料理など、色々工夫したりしながら楽しくておいしい給食に努めている。これからも安全でおいしい給食が提供できるように、子どもたちのより健全な育成に寄与できるよう取り組んでいきたい。
- 会長 新型コロナウイルスの影響で、2年間の間に数回しかお会いできなかったのは残念である。
現職を退いて2年になるが、現職のときに何が辛かったかという、自身の子どもの弁当を10年間作り続けたことである。
校長時代には、現場の大変さを感じていた。保護者も中学校給食の時間の短さを思うこともあろうかと思うが、三人寄れば文殊の知恵ということで、みんなで意見をだしながら前に進んでほしい。
本日の会議を散会する。

閉会